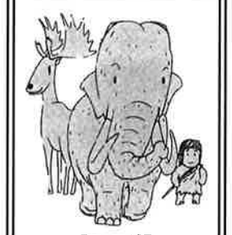
博物館のページ



野尻湖
メウマンゾウ博物館

野尻湖の大崎で、2013年地質調査が行われました

去る3月22日～24日に長野県北部の信濃町にある野尻湖の湖畔で地質調査を行いました。東は北海道、西は大阪と全国から総勢90名が参加しました。はじめての参加者も多かったのですが、小学生から大学生の若者を中心に、穴掘りや土捨てに大活躍していました。

野尻湖といえば立が鼻遺跡での発掘ですが、今回はいつもの発掘地から南へ約800mの地点にある大崎という場所で調査を行いました。なぜ、発掘地ではなくて大崎の地質調査を行ったのかについて、簡単に説明したいと思います。昨年10月の野尻湖地質グループと人類考古グループの合同調査で大崎を訪れた際に、干上がった湖底で密集した状態のナウマンゾウの臼歯の破片（ラメラ片）が4か所で発見されました。もともと立が鼻で産出するチャートなど基盤岩類の小さな円礫の由来を探すことが目的だったのですが、この発見によって、それどころではなくなってしまいました。これまでの発掘の成果で、野尻湖でナウマンゾウの化石が産出するのは野尻湖層の中でも、海端砂シルト部層から立が鼻砂部層と呼ばれる約6万年前～3万8千年前の地層だということがわかっています。ですが、これは立が鼻遺跡周辺のことであって、発掘地以外の場所でナウマンゾウの化石が見つかるとは思ってもみないことでした。このような経緯で急遽、大崎で地質調査を行うことになったのです。

今回の調査では、(1)大崎に野尻湖層に相当する地層があるのか？(2)本当に大崎の臼歯化石は地層の中から産出するのか？(3)地層中から産出するのであれば、野尻湖層のどの層準に包含されているのか？(4)他にも化石を包含する層準があるのか？の4点を確認することが目的となりました。きちんとした結論は、火山灰などの分析結果をまたなくてはなりませんが、今回の調査によって、大崎にも野尻湖層があること、臼歯の産出層準は立が鼻砂部層の上部であることが確認されました。さらに、今回の調査では、複数の層準にナウマンゾウの足跡らしい多くの〝くぼみ〟や立が鼻砂部層の下部からも化石が産出することを確認することができ、来年3月の第20次発掘や今後の発掘の方向性を考える上でも、実り多い調査となりました。

野尻湖地質グループ　竹下　欣宏

地学団体研究会機関誌「そくほう」より転載

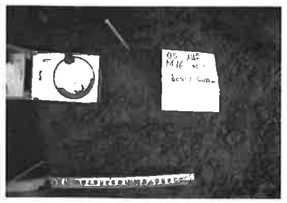
野尻湖大崎の地質調査地点
国土地理院発行 2.5 万分の 1
地形図「信濃柏原」を使用

調査の様子

地層の中から化石をみつけます

大崎地下の様子とみつかった化石

足跡状の凹み



ナウマンゾウの骨片

← 調査した穴から、地層が大きくたわんでいるところがいくつも見つかりました。よく調べてみると、上から大きな力で押されたように変形しています。ナウマンゾウの足跡の化石ではないか、と考えられています。

→ 調査の穴をほると、下から火山灰層がいくつかみつかりました。一番上にあった地層はいまから3.8万年まえの地層であると考えられます。ナウマンゾウの歯の化石はこの地層から見つかりました。

← 70㎝ほど掘ったところからナウマンゾウの骨片がみつかりました。

→ 今回は4つもナウマンゾウの臼歯化石（歯の化石）が見つかりました。どれも2つがセットで近い場所から見つかりました。それぞれ同じゾウの歯ではないか、と考えられます。

調査した地域の地下のようす

ナウマンゾウの臼歯化石（歯の化石）

石器に使われた石をもとめて
―「石器石材のつどい」が開催されました―

大昔の石器はきれいな石でできていますが、どこでとれるものでしょうか？全国の石器の石材研究者があつまり、4月20日に野尻湖で研究会があり、秋田や千葉など各地の17名が参加しました。

長野市の塚原秀之さんは、縄文時代の石鏃などの石器の石材について県内全域の調査を発表し、黒曜石以外に多くの石が利用されていることを明らかにしました。

富山県高岡市の田上和彦さんは、南砺市に旧石器が多く集中していて、その付近に玉髄（メノウ）や碧玉（赤玉など）の産地があり、多く使われていることを話されました。

新潟県津南町の佐藤信之さんは、安山岩や頁岩など良質の石がたくさん取れる津南町の河原の石の調査について発表されました。

中村からは富山県朝日町の境A遺跡（境パーキングエリア）の縄文時代の石斧が、野尻湖の旧石器と同じ軟玉（宝石の一種）であることを発表しました。昔の人は各地のいい石を求めていたようです。

熱心な討論がされました

南砺市のメノウの石器
いくつものかけらがつながります

津南町にはいい石がたくさん取れます

平成25年収蔵資料展
ナウマンゾウとマンモスゾウ

ナウマンゾウは日本各地で発見されているゾウの化石です。長野県からは、野尻湖のほかに千曲川沿いの地域から多く見つかっています。日本各地から見つかっているナウマンゾウを紹介します。ヨーロッパにいたアンチクースゾウというゾウがいます。ナウマンゾウによく似ていますが、牙があまり曲がっていないことが特徴だといわれています。このアンチクースゾウの臼歯の化石も展示します。ナウマンゾウと見比べてみてください。マンモスゾウの仲間もたくさんの化石を展示しますので、ぜひ見にきてください。

期日　2013年4月27日（土）～7月7日（日）
会場　野尻湖ナウマンゾウ博物館３階　特別展示室

← **トロゴンテリゾウの臼歯**
今から100万年前にいたマンモスの仲間です

← **マンモスの化石にさわってみよう**
本物のケナガマンモスの腰の骨にさわれます

５月連休・ミニ講座

博物館でゾウの骨にさわったり、昔の人が使ったのと同じ石器をつくります。申込みは必要なく、この時間帯に博物館前に来てください。

５月４日（土）　アジアゾウの骨をしらべよう
５月５日（日）　アジアゾウの骨をしらべよう
―本物のアジアゾウの骨をつかって、骨のしくみについて調べます。―
５月６日（月）　石器づくり
―野尻湖人に挑戦しよう―
「地質の日関連行事」
時間：　午後１時～３時　　場所：博物館まえ

← **アンチクースゾウの臼歯の化石**
ヨーロッパにいたナウマンゾウの仲間です
歯の形もナウマンゾウによく似ています

← **アンチクースゾウの子供の歯の化石**
とてもめずらしい歯の化石です